

へきなん障害者ハーモニープラン(碧南市障害福祉計画) ヒアリング結果(要旨)

資料2

団体別	質問1 貴団体の主な活動内容をご記載ください。	質問2 障害のある人に対する周囲の理解についての問題点や課題はありますか。	質問3 障害福祉サービスに関する情報提供について、問題点や課題はありますか。	質問4 障害福祉サービスの利用にあたって、問題点や課題はありますか。	質問5 障害のある方が就労するにあたって、問題点や課題はありますか。	質問6 障害のある方やその関係者に対する相談支援について、問題点や課題はありますか。	質問7 碧南市で不足している障害福祉サービスは、どのようなものと思われますか。	質問8 障害児(又はその疑いのある児)の育成について、問題点や課題はありますか。	質問9 障害のある方が地域で暮らすために、今の碧南市に必要なと思われることは、どのようなことだと思われますか。
団体 A	碧南市在住で、お子さんが安城特別支援学校に通っている保護者で活動している。 碧南市の福祉サービスについて、情報を発信したり、子ども達が安心して暮らせる為にいろんな視点で考え、学べるような勉強会を実施。	実際、障害について、興味を持っていただくことは、とても難しいことだと思う。身内や身近な友人に障害者がいれば違うと思う。障害児(者)に関わる周囲の方々への支援の仕方しだいが変われると思うので、理解者を増やすことは大切だと考えている。 また、子ども達にも障害について知ってもらうことは大切だと思う。 今の学校の支援級のイメージ(勉強ができない子がいる、自分には関係ないクラス)を変えられるといい。そのために障害、支援級について理解のある大人がいる必要がある。	まだまだ分からないことが多々あると思うので、自団体でも常に情報を収集して、碧南市に住む障害児を持つご家族の方々へ発信していきたいと思う。何か情報があれば、教えてもらいたい。 福祉サービスの詳細がわからない。 市が新しいサービスを行う時などは特に情報を発信して欲しい。 困ったことについて相談出来る体制や対応のサービスの充実をして欲しい。	放課後等デイサービスや日中一時支援について、夏休みは手続することで日数が増やせるが、春休みや冬休みも同様に日数を増やすことができないかという声が挙がっている。	障害のある方が、仕事に慣れるまでのフォロー体制がしっかりあるとよいと思う。 親として、子どもに働くための心構えを伝えていかないといけないと考えているが、企業がどんな人材を求めているかわからないので、保護者と企業の考え方をマッチングさせる機会があるとよい。 就労について一般企業へ質問する懇談会を開催したところ企業側もしっかり把握してなかった事がわかりよかった。 また、特性がわかりづらい障害の方々への支援は大丈夫か不安に感じる。	相談支援員がうまく動いてくれ、不安なことがあっても、相談しやすくありがたい。 学校と事業所とうまく連携を取ってもらっていて、ありがたい。	グループホームなど学校卒業後や親亡き後の事が考えられるような施設が増えるとよい。保護者がもっとニーズを訴えていくべきだと思う。 また、在宅で暮らしていく訓練等を実施するサービスがあればと思う。	障害児に関わる人達の情報の共有が必要かと思えます。 サポートブックを学校の支援級、発達障害の疑いがある子等にも利用してもらうとよいと思う。 また、活用方法についても、子ども達の情報等利用者だけでなく支援者にも記入してもらうとよい。	障害があっても、できることがたくさんあることを一般の人に理解してもらおう機会が必要。 障害者が作成した物をまわりの人知ってもらう事、障害者が仕事をしている姿をまわりの人知ってもらう事が必要だと思う。 親は、小学生から中学生支援級になると高校へ入学できないと不安になっているので、高校にも支援級クラスがあると良い。(高校がないと無理して中学校にて普通級へ行きいじめ等を受けてしまう。)
団体 B	体に障害のある子とその家族同士の情報交換、茶話会、勉強会、施設見学会、ピアサポーターによる相談会	障害の重い人の日常の暮らし自体が、知られていないので、様々な事で不都合や不便を感じている障害のある人とその家族の思いが多くの人に理解されづらいため、必要であることを要望しても、なかなか叶わない。 なかなか外に出られないことを知られていない。自分の家族がならないとわからない。 行動に制限がある。車いすで行けないので、あきらめざるをえない。 親は目を離せないで、なかなか親同士で集まることできない。 公共施設(文化会館、芸文、サンビレッジ等)も車いすに不便サンビレッジの風呂やプールが、水に濡れても大丈夫な紙おむつであれば利用可能にして欲しい。水に濡れるので、専用の車いすを設置して欲しい。	ラインのグループでたよりを出している。(ラインのグループに入っていない人に情報提供できない。ひらぎ特別支援学校の在籍、卒業であれば、グループに入れる) 情報をもらえない人は、障害を認めたくない等の意識がある。	サービスの受給時間等はあっても、事業所の職員不足等の理由で満足には利用できない状況。 離職しないよう、働きやすい環境づくりが大切。	身体障害があると、身の回りのことについて支障を要することがあるため、知的な能力、技術があっても就労に結びつかせることが難しい。 トイレなど介助サービスを付けるなどのサポートが必要	事業所の都合で担当の相談支援員が予告もなく代わってしまうことは、とても不安になる。 様々な個人情報を伝え信頼しているので、やむを得ず交替するときは、当事者も含めたしっかりとした引継が必要と思う。	ショートステイ 医療ケアを含む福祉サービスを提供できるヘルパー事業所 学校に通いながらも支援が受けられるように訪問介護や保健師(吸引、呼吸器等)を学校にも入れるようにしてほしい 重度加算があるとよい	学校関係者の障害等に関する知識と技術の向上 障害のある児童が地元校に入学を希望した際の柔軟な対応。 身体障害のみで車いすが原因で小学校に入れなかったことがあった。同じ社会に入れたい希望があるので、そのようなことをなくして欲しい。(健常者にとっても理解に繋がる)	重度心身障害者の入れるグループホーム、重度心身障害者をサポートできる拠点(市民病院でやってはどうか。) 障害のある人となない人と共に暮らすということを意識したイベント、事業があるとよい。(市民に広く障害のある人のことを理解してもらおう。) 保護者の急病時などの緊急時にレスパイトできるとよい。 知多地域でやっているような障害の有無関係なく一緒に楽しめるような発表会など文化的な楽しいイベントなどがよい。
団体 C	勉強会、相談会、施設見学会等の親向けの活動を行ったり、親子参加型の活動(お遊び会、お料理教室、運動教室、陶芸教室など)を行っています。	発達障害に対しての認識は、以前に比べると広がっていると思いますが、まだまだ理解されていない部分も多いと思います。 発達障害は、目には見えない障害なので、わかりづらく行動を誤解されがちです。 地域で、障害のある人が生きやすくなるよう啓蒙活動を行っていくことは必要だと思います。 車いす、視覚障害は、学校でも総合学習の時間で教わるが、発達障害については知られていない。愛知キャラバン隊ネットワークによる講演会を小学生で開講しているので、一般の人や親にも見に来て欲しい。出来るだけ小さいころから出来るが良い。	福祉サービスの情報や利用については、多くの方が認識、利用されているように思えます。ただ、昨今、放課後等デイサービスの事業所が急増していて、利用者側としては、選択することができるようになっています。保護者が子どもに合った事業所を見つける手立てとして、その事業所の特長や利用者の年齢層などを載せたパンフレットの作成してほしい。	支給量の増加 子どもの特性が強いと支給量が少ないと感じる人もいます。支給量があるだけでなく、親と子どもの関係づくりもきちんと出来ていることも必要。 家族の状況に応じてレスパイトの機能を充実して欲しい。	徐々に市内でも就労施設が増えていると聞いています。啓蒙活動の意味も込めて、地域や一般の方に障害のある方が生き生きと働いている姿を見ることが出来る就労施設ができるとよいと思います。作業所のような事業所内作業だけでなく、レストラン、カフェなどの地域密着型の施設があればと思います。	個別支援として、相談員、事業所、本人(又は家族)間で、ケース会議が行われることがあります。が、学校教育の支援者の参加が難しい傾向があると思います。学校は、家庭の次に子どもが長く過ごす場所でもあるため、一貫した支援を行うためにも、できるだけお互いの情報交換、情報共有ができる環境にしていく必要がある。 学校ではやれる事、学校だとやれない事などをふまえた議論が出来ていない。またケース会議は、子どもに問題があった時に開きたいが、タイミング良く開催することも難しい。	児童発達支援サービスの事業所(早期発見・早期療育につながるため、親のレスパイトのため)一番手がかかる年代で支援を必要としている家庭が多い。市外に通うとなると負担が多い。にじの学園の受け入れ定員を増やしては欲しい。	いわゆるグレーゾーンの子どものは、幼少期から療育の枠から漏れ、問題行動が増えてくる小学校頃から、わかることが少くない。家庭への情報が不足し、なかなか支援に繋がらない傾向がある。 学校サイドで、サポートブックや親の会等の紹介、キャラバン隊講演や教育講演会の参加の勧め、福祉サービスの簡単な説明など、大まかな子どもの支援について、保護者に伝えることができれば支援へと繋がりがしやすいのでは。 また、こころつくしんかわなど、子供連れでいつも遊びに行っている所に、アドバイスをくれる支援員がいると、情報伝達の機会は増えると思う。	相談、支援の拠点となる発達支援センター 障害のある子ども、家族が安心して過ごせる場所があるこころつくしんかわなどの公共施設が、子どもが自力で行きやすい各学区毎にあると良い。 家族が安心して過ごせる拠点にもなるうえ、子どもたちと遊びに行くついでに相談出来る。 おもちゃ図書館祭りの評判が良く、こころつくしんかわの評判も良い。碧南は児童館が充実していると感じる。 障害のある子ども地域に堂々といていいんだという気運が必要。 グループホームの充実が必要。
団体 D	視覚障害者の方々より、交流会を通じて、希望を開きながら点訳するものを決めています。また、他団体等(身障協会、市福祉課)の要望による点訳活動を行っています。	どう接してよいか分かることが一番だと思う。その講習となるような機会がたくさんあれば、よいと思います。 子供を中心として親も巻き込んでいくような交流の場の創出ができるとうい。	点字を必要としている人達の情報が、個人情報保護法等により、わからない。団体としてどのくらいニーズがあるか把握できていない。 子供を中心として親も巻き込んでいくような交流の場の創出ができるとうい。 団体のサービスを利用する人の高齢化が進んできている。点字を読むのが高齢になると難しい。 盲学校に通う方と団体の仲立ちを市にしてほしい。	困りごとがあった際にどの相談窓口に行けばいいのかわかりづらい。 市でも福祉ガイドブック等を作成しているが情報が細かすぎる。 困りごとと相談窓口の対応関係が分かるような情報をホームページ等を活用して周知してほしい。					今の制度がどれだけ周知され、利用されているのかも大切だと思う。周知が十分かどうか、判断するために利用率の確認が必要だと思う。周知が十分かどうかは、当事者に聞かないと解からない。障害の方が、集まる場所や機会を生かして、周知を図る必要がある。

へきなん障害者ハーモニープラン(碧南市障害福祉計画) ヒアリング結果(要旨)

資料2

団体別	質問1 貴団体の主な活動内容をご記載ください。	質問2 障害のある人に対する周囲の理解についての問題点や課題はありますか。	質問3 障害福祉サービスに関する情報提供について、問題点や課題はありますか。	質問4 障害福祉サービスの利用にあたって、問題点や課題はありますか。	質問5 障害のある方が就労するにあたって、問題点や課題はありますか。	質問6 障害のある方やその関係者に対する相談支援について、問題点や課題はありますか。	質問7 碧南市で不足している障害福祉サービスは、どのようなものと思われますか。	質問8 障害児(又はその疑いのある児)の育成について、問題点や課題はありますか。	質問9 障害のある方が地域で暮らすために、今の碧南市に必要なと思われることは、どのようなことだと思いますか。
団体 E	事業所の活動への参加(精神保健福祉座談会、家族懇談会など) ころころでのボランティア	調子が悪くなって病状が出たときに周囲の人の理解が得にくい。広報に病気や障害の内容や接し方など載せて欲しい。(統合失調症とはとか、糖尿病などのように)	情報をしっかりと把握できていないことや情報の内容をよく理解できていないままのことがよくある。 就労支援サービスがあることや、自立支援医療を使えることを知らない人がいる。 迷惑がかかると思ってしまう、恥ずかしい、障害を認められない、いつか治ると信じる等々思ってしまう。	せっかく通えるところがあったり、本人が通えなかったり、ヘルパー等を入れることに抵抗がある人もいる。(時間がかかったり、相談する人が少ない。)	症状が出ているので、就労について具体的に考えられなかったり、また悪化するのでは?という不安がある。(急に悪化してクビになるのではという不安がある。) 休んだ時の補償が企業側にあるとよいのではないか。	精神障害は、まだ相談に繋がっていない人が多いと思われる。 家族会が弱体化しているため、なかなか家族会で会えない。(→家族懇談会当でPRをしてはどうか)	就労継続支援A型が、もう少しあるとよい。 一般企業は難しいとあきらめている。 時間的に難しい。(長時間働けない。)	把握されていないケース(家庭)がないか? 親のハードルが高い。(障害を認められない等)	障害に対する理解がもう少し進むとよいと思う。知ってもらうことが大切。
団体 F	中途失聴者、難聴者、聞こえの悪い人達に、書いて伝える手伝いをしている。 主に講演会、各団体の行事に参加。	どうしても奇異な目で見てしまいがち。 聴覚障害者は、外見ではわかりづらいので、余計理解してが得られない。				その人その人の考え方があるので、何とも言えないが、家族だけで孤立している感じがする。 色々な団体があるので、そういったところに所属するなど、外に向けての働きかけを市としても欲しい。	難聴者に対する要約筆記者の派遣事業が受けにくいのでは?と思う。 利用したいなと思っても、面倒だからと申請しないで済ませてしまうということをよく聞きます。	人工内耳の買替が高額なため、助成金をいただきたいと難聴者からの要望有。 健常者であっても高齢になれば、耳の聞こえが悪くなり、難聴者と同様に福祉サービスが必要になります。 他市の助成金の状況は、体外装置を買替の場合、日常生活用具として(岡崎市35万円、豊田市20万円、豊橋市20万円)情報があります。	
団体 G	毎月1回第1か第2日曜日に行う一日療育(一日保育)がメイン。対象として、市内在住の重度の心身障害児(者)を中心に行っている。	障害のある人に対し、ボランティア活動をしている人や家族は、接することに対して何とも思わないが、そうでない人にとっては、少し壁(距離)があるように思う。障害を理解するのは難しく、どうしても見た目等で判断しがちになってしまふと思う。隔たりをなくすため、ふれあう機会を持てる方法を探して欲しい。			障害者の障害程度や能力によっても人様々なので、はっきり言えないが、就労先は少ないように感じる。 以前は、仕事の中にも楽しみがあったが、事業運営の中で利益追求を余儀なくされ利用者にとって面白くない仕事ばかりが残ってしまうこともある。 障害者の方々それぞれが出来ることを見出し、それを続けていけるような就労先の発掘、維持活動をして欲しい。	障害のある人が高齢化してくることで、保護者等も高齢なので、余暇支援活動をしている場にも、出て行きたくとも行けなくなってきている人が増えてきた。旅行等にも参加したくとも付き添いがいないと参加できず、家族など周囲の人の理解が必要。 旅行時などに一時的にボランティア求められても、本人の理解が出来ていないと支援もむずかしい。	若い人材を増やすボランティアの育成が必要だが、新規加入の人はなかなかいない。利用者や会員の子供さんが加入することが多少ある程度。 中高生のボランティアが長期休暇時に手伝ってくれるが、一時的なもので、会員になってくれることはない。		
団体 H	障害者の就業及び生活に関する相談業務 障害者雇用を進める企業への支援	障害者雇用を進める企業の中でも、正しく理解している方がまだ多くなく、障害の正しい理解を伝えることは課題であると感じる。 障害の受け取り方がまちまちで、どのように仕事を任せて良いかわからない企業も多い。企業の理解促進のため、セミナーの実施や就労継続新事業所の見学などが必要と思われる。	情報提供については、特に問題ないと思います。	サービス利用の検討から開始までのスピード感が大切だと思います。 障害者のモチベーションが落ちないようにすることが必要。	障害者本人及び家族の就労したい気持ちとそれを受け止める企業の障害に対する理解。 障害者本人が働くイメージが想像できておらず、就労の継続ができないことがあるため、現場を見せる機会を多く作ると良い。 企業からの相談もよくある。特に雇用前にはなかった問題が浮上した場合や、症状が急変した場合、また雇用募集出しているが応募がないなど。		就労移行支援事業所が碧南市内に企業が少ない。		
団体 I	ダウン症の親子対象 親子の親睦を深めながら、将来に繋がる余暇活動 お互いの情報交換 就労に向けての他市を含めた事業所見学、施設見学など	小学校によっては、障害のある子の理解についての勉強会があります。そういう機会を特定の小学校ではなく、全市で福祉の事業所で取り入れていただけたら、よい機会に繋がると思います。(西端小学校では、毎年小学校5年生で自閉症などの勉強会があり、聞く小学生も年齢的にも受け入れられて、とてもよい機会に繋がっています。)	事業所や相談支援など、昔に比べて手厚く、子どもに対する支援計画を考えてくださることを有り難く思っています。 細かい情報を届けるのは難しいので、相談窓口だけでもわかりやすく周知できるとよい。	基本回数を増やす際などに、簡単にできたと思うこともあれば、なかなか希望を通すことに難しさを感じたということも聞きます。窓口での取扱について、平等性を統一して欲しいと思います。 放課後等デイサービスなどは支給基準が他市と比べてバランスが悪いのではと感じるところがある。ただ、家庭での時間も大事なので多すぎるのはよくないことも理解できる。	放課後等デイサービスなどを利用できたりし、個人のスキルアップを目的とすることがあります。 安城・刈谷などの「くるくる」の事業所など就労移行からの一般就労を目指せるような事業所などが、碧南・高浜辺りであると利用しやすいと思います。 需要が一定数あるということも市でも事業者に向けてアピールしていく必要があるかも知れない。	地域によって相談員が丁寧に色々教えてくださり、とても助かっています。	(就労意欲がある人)	働く場をもっと色々な選択をできるように充実して欲しいです。 将来的には、グループホームなどを作って親亡き後でも安心して過ごしていける環境づくりをして欲しいです。 新規の事業所ができるためには、マンパワーが足りない。市内の資格を持った主婦層を活用できるとよいと思う。	

へきなん障害者ハーモニープラン(碧南市障害福祉計画) ヒアリング結果(要旨)

資料2

団体別	質問1 貴団体の主な活動内容をご記載ください。	質問2 障害のある人に対する周囲の理解についての問題点や課題はありますか。	質問3 障害福祉サービスに関する情報提供について、問題点や課題はありますか。	質問4 障害福祉サービスの利用にあたって、問題点や課題はありますか。	質問5 障害のある方が就労するにあたって、問題点や課題はありますか。	質問6 障害のある方やその関係者に対する相談支援について、問題点や課題はありますか。	質問7 碧南市で不足している障害福祉サービスは、どのようなものと思われますか。	質問8 障害児(又はその疑いのある児)の育成について、問題点や課題はありますか。	質問9 障害のある方が地域で暮らすために、今の碧南市に必要なと思われることは、どのようなことだと思いますか。
団体 J	定期総会、療育事業、クリスマス会、ひなまつり会を毎年実施 社会福祉協議会主催の各種事業、県育成会事業に参加	障害者三法として制定された法律は、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法。この社会変化の中、徐々にではありますが、自立していく人があります。ですが、障害者は、どちらかと言えば、不利な職種、職場等に配属、対応せざるを得ない状況です。それでも頑張っているようです。今は、インクルーシブ教育と言われていますが、教育をする側も頑張ってください。 地域として支援していくにあたり、小中学校、高校への進学時は支援情報の伝達があるが、社会出る際に途切れてしまう。 知的障害者の教育も社会人になっても勉強する場を設けてください。障害者にも努力させてやってください。 就労継続支援B型の事業所においても社会能力を勉強することはでき自立につながれることもあると思う。	知的障害者にとって、過去10～15年前より法律の改正があり、諸条件が大きく変化してきました。変化に対応すべき勉強会は、当団体主体が大半で、その資料は会員には、できるだけ配布してきました。 後見人制度の勉強会を市職員の話をつきかけに実施してきましたが、今後社会福祉協議会と相談し、年1～2回勉強会を実施していきたいと思えます。 一方で会員外の人に情報が流すことは難しい。情報をそのままコピーして流してしまうと著作権問題などもあり心配。	サービス内容は、個人個人により差があります。 作業所等に通所している人は、施設職員とコミュニケーションを大事にしていけば、年間行事等で日常サービスは心配ないと思えます。 環境の変化があった場合、相談する人が近くにいれば、問題ないと思いますが、いない場合社会福祉協議会の窓口を利用していると思えます。 将来の不安は、なかなか相談することには難しい。情報をそのままコピーして流してしまうと著作権問題などもあり心配。	まず第1に就労移行支援事業所の利用者が少ない。市内事業所で他市の障害者が働く姿が見受けられる。 障害者が仕事をするために、仕事を見直す必要があり、現状の仕事は一般の人が作り上げたもので、障害者が作り上げたものとはほとんどない。 その人その人ができる事を、仕事とする仕組みが必要だと思えます。 仕事の全行程を一人で行うのではなく、部分的な仕事を分業制にするなど。	知的障害者を持つ親は、第三者に相談することが少ない。問題点が知的な部分になると、専門家(医者、精神科医等)に頼らざるを得ない。障害者本人が相談することができる人は、ごく少ないし、又当団体の親としても障害者本人とじっくり話ができる人はほとんどない。親の一方的な話になると思えます。 障害があっても意見は言える、そのための聞き出す努力が必要というように、親の意識を変えられるような支援が必要。 また昔は春日井コロニーに行けば問題解決の糸口がつかめたが、今は開業医の紹介がないと総合病院にかかれぬ。子どもが障害であると同時に高齢者になります。親は、今も高齢、先はもつと高齢。 病気になった時の対応(どこへ行って良いかわからない。専門的に相談に乗ってくれる人(先生)が欲しい)。	碧南市内に企業が少ないのがもったいない(他市へ流出する)。高齢者福祉に対する需要が高まっていくと想定させるなか、障害者を介護に積極的に参加してもらい就労して活性化するとよい。	障害児を持った親の将来を一緒に考えてあげる。(一人で考え、悩みがち) 子どもの育ちの方向性を示すことができれば、親の生き方にも繋がる。 子どもの問題につき、夫婦で話ができるようにしなければ、母親一人の問題となってしまいます。制度の問題でなく、家庭の将来が見えるようにすることが大事。親が自分の子(障害児)の現状について真剣に考えてあげられるようにする。	就労支援事業所に就職し、仕事の適正を十分に確認してもらい、就職斡旋を受け、数年間定着支援を受ければ、仕事は安定すると思う。 ただし、障害者は同時に複数の職業を仕事とするのは難しいので、その都度配慮してもらわなければ、定着率向上は難しい。企業側が障害者側に出来得る業務内容を聞き出す仕組みがあると良い。 グループホームを完備し、就職後の生活を安定させる。支援員が働きやすい環境、地域にグループホームの存在が受け入れられている環境を作れると増設につながるのでは。 親からの自立を目指し、将来の家庭を応援することが必要だと思え、一方がグループホームへ最初から入所させないための努力させることも地域で生きていくうえで必要。
団体 K	発達遅れのある子どもと保護者とのよりよい関係づくりを基礎として、社会生活への適応能力を増進すること。 保護者に対しては、子どもの発達を理解し、具体的な支援方法を習得する。			通っている子どもへの福祉サービス 当園に通いながら、保育園や事業所の利用を積極的に進めてほしい。				のびのび教室を卒業してから、当園に入園するまでの期間に支援が空いてしまう。 保育園等で集団で生活できない子が多く、人手が足りなくなってしまう。	
団体 L	心身障害児(者)施設、団体に対する援助事業(にじの学園の子守りの援助、ふれあい作業所の作業の援助、障害者団体へレクレーション事業の開催、ふれあいフェスティバル等の市の行事への参加等)	本人の高齢化、親の疾病や高齢化、住宅について地域社会でどう対応していくかが重要。(障害者のいる家庭を地域社会が把握しておく必要がある) 理解を得るためには、接するしかないと思う。実際関わらないとわからない、関わることで見方が変わる。小さい時からふれあう機会を増やす。福祉実践教室(アイマスクや車いす体験)の回数を増やして体験を増やす。 障害者用の施設を作ってしまったのも実はよくなかったかもしれない。(昔は専用の施設はなく、社会にいたるものが当たり前で思われていた時代もあった。) 同情はしなくてよくて、差別をしないようにすることが大切。			企業にゆとりがないと不平不満が出る。 企業も神経を使う。 上司や雇用側の教育が必要。	専門職によるカウンセリングを定期的実施した方がよい。 決まった相談支援員が欲しい。 そっとしておいて欲しい人もいる。	親を教育し、早目に相談支援に繋げることが重要。 人と人の付き合いが大切。 関わる場所が必要。伝える手段を多くする。(相談に繋がるような講演会を実施し、家族や知り合いから情報提供してもらう等) 難しいと言って、やらないのがダメで、時間はかかるが、できることをやり続けることで少しずつでも広めていく。(昔よりはよくなってきている。)		
団体 M	身体に障害を持つ者達の親睦を深めるための交流 障害があっても日々楽しく過ごせること、できることの中で充実感を得ること、そのための情報、行動など起こせる場所である	最近、特に周りの方の理解、声掛けなど受けることが多い。様々な場所での小さな運動が功を奏しているのではないかと。(街の中で見知らぬ人に声をかけられ、車いすを押してくれてうれしかった。福祉実践教室に行っても、児童が声をかけてくれ、車いすを押してくれるので、実践教室は効果的だと思う。自分のおじいさん、おばあさんのように障害者にも接して欲しい。ふれあいが大切で、ふれあうことで理解してもらえる。)	介護老人保健施設などで受ける介護保険サービスなどについては、勉強不足で特にない。 また、自らサービスに関する情報を仕入れようとする障害者も少ないので、その点の情報提供に問題があるのではないかと。 心身障害者福祉センターのデイサービスはすばらしい(家族で時間をすごせる。楽しい時間をすごせる。)ので、もっとPRすべき。	若い障害者(身体)が、特に就労しておらず、家庭内で過ごしている人もいると思うが、その人達に回復し心身障害者福祉センターのデイサービスの存在を知って欲しいと強く思う。	障害者の作業所などがあるが、障害のレベルで就労時間に差があってもよいと思う。 本人のできる範囲を見出し、その中で就労を可能とする取り組みがあっても良いと思う。	当協会の存在を知ってほしい。 障害を持つ者同士の気安さもあがり利用してこそ、そのよさも知れる。 関係者もレベルによって違うが、開放される時間もできたり、他の人の様子もうかがい知れ、知もちの支えになると思う。 家族がその気にならないといけない。 障害になったことを悲しまずに楽しいことがあることを知ってほしい。(充実した生活が送れることを知ってほしい。) 親の意識を変えるのがよい。 当協会の活動を広げたい。	障害者を持つ家族、本人に対して、市が行っているサービスの内容がしっかり伝えられていないのでは？ 特に活動ができるのに、家に籠っている人がいるのではないかとと思う。	周りの方、地域で接する方々の優しい声掛けなど障害者を特別な存在だと思わず、隣人に対するような自然体で対していただけのための運動があるとよい。	

へきなん障害者ハーモニープラン(碧南市障害福祉計画) ヒアリング結果(要旨)

資料2

団体別	質問1 貴団体の主な活動内容をご記載ください。	質問2 障害のある人に対する周囲の理解についての問題点や課題はありますか。	質問3 障害福祉サービスに関する情報提供について、問題点や課題はありますか。	質問4 障害福祉サービスの利用にあたって、問題点や課題はありますか。	質問5 障害のある方が就労するにあたって、問題点や課題はありますか。	質問6 障害のある方やその関係者に対する相談支援について、問題点や課題はありますか。	質問7 碧南市で不足している障害福祉サービスは、どのようなものと思われますか。	質問8 障害児(又はその疑いのある児)の育成について、問題点や課題はありますか。	質問9 障害のある方が地域で暮らすために、今の碧南市に必要なと思われることは、どのようなことだと思いますか。
団体 N	特別支援学校		進路先を考える上で、毎年度始めに日中活動の事業所全てを訪問し、定員数、空き状況、支援内容等の聞き取りを行っています。かなりの労力が必要なので、こうした情報が一元化されていると助かります。 近年事業所の新設が多く、単独での情報収集が厳しい。 数年後の事業展開予定などを聞き取り情報提供、対策検討できると良い。 事業種別毎に市内の各事業所が集い、日頃の業務などで不安なこと、他の事業所ではどのように対応しているか聞きたいことを尋ねられる場があると良いのでは。	在学中に利用できる放課後等デイサービスについては、「使い過ぎ」と思われるケースも見受けられ、家庭での支援力低下に繋がっていないか心配しています。 放課後等デイサービスと学校と家庭の支援が連携でき、本人のよりよい成長に繋がるようになって欲しい。 卒業後の進路については、平成31年3月卒業の生徒について、特に生活介護の空き状況が厳しく、心配しています。日頃から、在学生の予想進路(普段支援している教員の見立てによる)と事業所の空き状況や事業計画等を把握するシステムが欲しいです。			・生活介護…学校が持っている数字では、本校の高校3年生が希望どおり進むと次のとおりです。ふれあい作業所70/60、ふれあい福祉園ガイア58/40、ふれあいの杜まんなか17/20(利用/定員) 参考までに高浜市の生活介護も全て定員を大幅に超えています。 その後の生活介護利用が予想される碧南市在住生徒数は、高校2年生が4名、高校1年生が1名です。(参考までに高浜市在住生徒は、高校2年生が5名です。) ・グループホーム…進路懇談では、親が元気なうちに入りたいという保護者がほとんどです。(西尾市はいいなとよく話されます。)		
団体 O	特別支援学校				障害のある方に対するイメージが凝り固まっているため、それぞれの方にできることがあることなどが伝わるように雇用側(地域社会)に働き掛けていく必要があると思います。特別支援学校では、地域の学校と交流を持つため、居住地校を行っている。 知的な障害がなくとも身体的な介助が必要な場合、就労先に協力を受けられるのか、現状としては在宅か医療以外に行き先がないのが現状です。	各相談機関が、どのように連絡していくかが課題だと思います。そのために、機関相談支援センター等がコーディネーター的な役割を果たしていく必要があると思う。 市は各種相談窓口はどのかのPRが足りないようにも感じる。	生活介護の事業所の定員がいつばいで今年度の卒業生が市内でサービスを受けられない状況である。医療的ケアが必要である生徒(重度)も安心して過ごせるようなサービスも不足していると感じる。 新規法人が参入できるように、地域でニーズが多いことも対外的に訴えていく必要がある。	支援の必要な児童生徒が、小・中学校に入学する場合に十分な合理的配慮ができる人材や設備が提供できるようにすること。	
団体 P	精神科病院 デイケア 作業療法	入院されて来る家族の中には、精神科病院へ入院したことは、他の親族に言えないと言う方もいる。 精神の病気があることを他の親族、公的機関にも相談できず、問題が大きくなってからしか支援、介入ができていない。 両親にケアマネが付いたときなどに対応できるよう、世帯に入っていける公的機関等の担当に精神保健の知識をかじってもらうとともに、福祉部局との連携を充実させると、少しは早く対応できるのでは。		丁寧に相談にのっていただいていると思います。	自立支援協議会に事業所関係の方が多く参加されていて連携が取れていると感じます。 精神障害の方の理解が進むとよいと思います。	基幹相談支援センターと相談支援事業所の役割がわかりにくい。	住宅(グループホーム)とは思いますが、実際に(本当に)利用されるのかは、やや疑問もあります。	こども課と福祉課の相談窓口がわからず、混乱して相談に来られた母親が当院へ来たことがあります。ワンストップで相談を受けていただけるとわかりやすいかもしれません。	病院や事業所への移手段(交通機関等)が少ない。
16団体 まとめ (コメント)		障害について関心を持ってもらい、理解してもらう必要があるとの声が多くあります。また、その具体的方法として、学校での教育を通じた子どもへの啓発活動があげられました。	なかなか情報をつかめないとの声が多く、パンフレットなどによる福祉サービス情報の広報や、細かい情報を伝えるための相談窓口の設置などの課題があげられました。	放課後等デイサービスの利用に関して、長期休暇の日数増加についての意見や、利用増による家庭への影響を危惧する声もあげられました。また、サービスの提供について、個人個人の差に応じた支援や、スピーディーな支援の必要性があげられました。	障害者が慣れるまでのフォロー体制の整備、トイレや介助サービス、カフェスタイルの就労支援事業所など障害者が実際に働いている姿を世間の人が目にする事が出来る環境などを求める声もあげられました。	相談支援員に対する評価は高くなっています。また、相談に繋がっていない方がいる現状や、家族会の弱体化、保護者の高齢化など、様々な問題点があげられました。	医療ケアを含む福祉サービス、学校卒業後や親亡き後の施設、就労支援事業などがあげられました。	サポートブックを活用した情報提供の声が多くあげられました。また、学校関係者の専門知識と技術の向上、合理的配慮などの課題があり、障害児とその親への支援が課題となっています。	障害理解に関する意見が多くありました。障害者が作ったものを見てもらう、障害のある人となんが一緒に取り組む、など、障害に対する理解の促進が多くありました。

(※)へきなん障害者ハーモニープラン(碧南市第5期障害福祉計画)策定のための市福祉課による各団体・事業所へのヒアリングを、2017年8月21日から9月1日までの土・日曜日を除く10日間、福祉センターで実施しました。
ヒアリング及び調査回答に参加したのは 団体、事業所、計36機関で、各団体・事業所の代表者らから各質問項目等について詳細な説明や、意見を聴取するなどしました。